

## 大麻生小学校区ハートフル・ミーティングの概要

- 1 日 時 平成 25 年 5 月 11 日（土）午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分
- 2 場 所 大麻生公民館
- 3 参加者 57 人
- 4 会議の概要

### （1）教育を取り巻く諸問題（いじめ・体罰など）と対策について

#### 市民

教育長さんに伺います。今、いじめと体罰の問題が全国的に大きく取り上げられています。平成 24 年度に市内で起きたいじめと体罰について、教えてください。

#### 教育長

本市でもいじめや体罰の報告がありますが、未解決のものはありません。件数などは、学校教育課長からお伝えさせていただきます。

#### 学校教育課長

いじめは、小学校で 48 件、中学校では 188 件の報告がありました。内容は、悪口を言われたという事例のほか、休み時間に追いかけっこをしているうちにエスカレーターをしてぶたれたという事例などです。なお、いじめであるかどうかは、本人がそう感じていれば、いじめであると判断をしています。

体罰については、小学校で 2 件、中学校で 6 件の報告がありました。内容は、プールで命に関わる悪ふざけをしている生徒に何度注意をしても聞かなかったため、腕をつかんでやめさせたところ、保護者から体罰ではないかという訴えがあった事例や、授業中再三の注意にも関わらずつつき合いや私語をやめずに授業が進まなくなったためにペンで頭をたたいたという事例などが報告されています。

#### 市民

教育委員会では、いじめと体罰の防止や、起きた場合の対応、再発の防止について、どのような方針で学校に指導をしていますか。

#### 教育長

いじめにあった生徒は、傷ついた心が血を流しています。まずは心の止血をするため、いじめの訴えがあり次第、緊急の職員会議を開き、教師がすぐさま対応している姿を生徒に見せるように指導しています。その後、しっかりと事実の確認をして継続的な指導をします。その際に注意すべき項目も、子どもたちが登校してから下校するまでの各段階で、何ページにもわたって取りまとめしています。

体罰については、どのようなことがあろうと、生徒に手を上げてはならないと指導しています。これは法律（学校教育法）で決められていることでもあります。

市民

いじめられている生徒は、親を心配させたくなかったり、相談をしていじめが悪化することを恐れていたたりするので、表には出てこないいじめもたくさんあるはずです。しかし、先生との間に信頼関係があれば、素直に相談ができ、先生もすぐ対応が取れます。そのために、先生にはカウンセリングの手法を身に付けていただきたいと思います。カウンセリングには、傾聴・受容・共感によって病んだ心を治療するほかに、一緒に問題を解決する方法を考えるとという意味合いがあります。

また、体罰を防ぐため、先生には人権意識を持っていただきたいと思います。生徒は先生より立場が弱く、弱いものほど人権を尊重される必要があります。

市長

校長会などの機会を通じて、引き続き指導を行ってまいります。

市民

少年野球やサッカーといった地域のクラブ活動（スポーツ少年団など）は、小・中学校の教育活動の一環ですか。

教育長

学校教育とは別個に行われている活動です。

市民

そのような団体に対して、体罰防止の指導はどのように行われていますか。

市長

それぞれの団体は組織化されていますので、その上部団体を通じて指導が行われています。

## （２）高齢化に伴う諸問題（独居化・災害救助など）と対策について

市民

高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が増えてきました。離れて暮らす子どもたちとは関わりが少なくも珍しくありません。これからは、近所に住む高齢者同士で助け合うことが必要だと思います。しかし、相談事があっても、誰に聞けばよいのか分からないことが多くあります。例えば、認知症のことが心配になっても、民生委員に相談すればよいのか、自治会や長寿クラブの方に聞けばよいのか、分かりません。

市長

どなたに聞いていただいても結構です。民生委員さんは地域のことや制度のことをいろいろと御存知ですし、必要なことは行政に取り次いでくれます。また、自治会や長寿クラブの役員さんに聞いていただいても、分からなければ、

役員さんから民生委員さんに連絡をしていただくのも良いと思います。そうやって気軽に相談ができるように、日頃から自治会や子ども会、自主防災組織など、地域の活動を通じてコミュニケーションを図っていただくと、ありがたいと思います。もちろん、本日お配りした「シルバーガイド※<sup>1</sup>」と「介護保険サービスガイド※<sup>2</sup>」の各問合せ先に直接御連絡を頂くこともできます。

※<sup>1</sup> シルバーガイド：高齢者の福祉サービスについてまとめた冊子

<http://www.city.kumagaya.lg.jp/kakuka/fukushi/tyojyuikigai/oshirase/shiruba-gaido230930.files/24silver06.pdf>

※<sup>2</sup> 介護保険サービスガイド：介護保険の申請からサービスの利用までをまとめた冊子

<http://www.city.kumagaya.lg.jp/kakuka/fukushi/tyojyuikigai/oshirase/shiruba-gaido230930.files/guide1301.pdf>

## 市民

民生委員さんの中には、複数の地区を掛け持ちで担当されている方もいます。各地区に民生委員さんがいると相談がしやすく良いと思います。

## 市長

民生委員さんは、厚生労働大臣の委嘱を受けて選ばれ、定員が決められていますので、複数の地区を掛け持つ方がいらっしゃるのも制度上やむを得ないところがあります。民生委員さんが足りない場合には、自治会の役員さんなどに気軽に相談ができるような雰囲気づくりに努めていただければ、ありがたいと思います。これからは、地域の中でお互いに補い合い、社会全体で支え合っていくということが必要になってくるのだと思います。

熊谷市の高齢化率※は現在 24%で、毎年 1%ずつ上がっています。このことを考えると、一人一人が素直に心を開き、お互いに相談のできる雰囲気を作れるかどうかで、地域の力に差が付いてくるのだと思います。是非、皆さんの御協力をお願いいたします。

※ 高齢化率：総人口に占める 65 歳以上人口の割合

## 市民

市全体の高齢化率は 24%でも場所によっては、10 軒中 5 軒が独居の高齢者という所もあります。高齢化率が上がるということは、生産年齢人口※が少なくなるということです。結果として、市内で動くお金の量や税収も減ってしまいます。そのような事態を避けるには、若い人たちが市内にとどまれるように、雇用の場を確保することが必要です。この先 10 年、20 年を見据えた将来の方針があれば、教えてください。

※ 生産年齢人口：15 歳から 64 歳までの人口

## 市長

はじめに、市の予算のお話をいたします。高齢者向けの予算（支出）は社

会福祉費という項目に含まれ、社会福祉費に児童福祉費と生活保護費を合わせたものが民生費です。民生費は年々増え続け、平成 25 年度はついに当初予算の 40%を超えました。市では、これらの財源を確保するために、行財政改革を進めて職員数を減らし<sup>※1</sup>、借金と利息の支払額も減らしてきました<sup>※2</sup>。さらに、経済情勢の劇的な好転は期待できませんので、一般家庭の貯金に当たる財政調整基金を増やし<sup>※3</sup>、将来の支出に備えているところでもあります。

また、行政の仕事のうち、地域の皆さんに御協力をお願いできるものの仕分けも進めていきたいと思っています。例えば、災害時に自力での避難が難しい高齢者などを支援することもその一つです。江南地区では、防災訓練の一環として、日中不在にしていることが多い大人の代わりに、中学生が高齢者などの安否確認をするという取組が行われています。このように、地域の中で知恵を出し合って、自分たちの地域を自分たちで守っていくための方法を考えていきたいと思っています。

あわせて、今回、世界屈指の家電企業であるハイアールの研究開発施設を誘致しましたように、企業を市内に呼び込んでいくことで、若い人たちが働き、とどまることのできる環境を作りたいと思っています。

※1 職員数：平成 17 年度当初（1,762 人）、平成 25 年度当初（1,402 人）

※2 借金：平成 16 年度末（約 884 億円）、平成 24 年度末（約 646 億円）

※3 財政調整基金：平成 16 年度末（約 39 億円）、平成 24 年度末（約 70 億円）

## 市民

市では、高齢者に向けた様々な事業に取り組んでいただいておりますが、それがどの程度まで市民に伝わっているかは、疑問が残ります。せっかくの制度があることを知らずに困っている人がいなくなるよう、一層の広報活動に努めていただきたいと思います。

## 市長

高齢者に向けた事業の広報としては、介護保険の通知を出すときに資料を同封したり、「シルバーガイド」や「介護保険サービスガイド」に掲載をしたりしています。また、地域で御相談を頂く中で、民生委員さんや自治会の役員さんから伝えていただいている情報もあると思います。今日、皆さんに御説明した内容も、是非、御近所の方にお知らせしていただきたいと思います。このほかに、市政宅配講座<sup>※</sup>という事業があります。自治会などで高齢者の利用できる制度について勉強会をしようというお話が出ましたときには、是非お声かけください。市の職員を無料で講師として派遣いたします。

※ 市政宅配講座

[http://www.city.kumagaya.lg.jp/kurashi/sisei\\_takuhai.html](http://www.city.kumagaya.lg.jp/kurashi/sisei_takuhai.html)

## 市民

私は今年で 65 歳になりますが、これまで「シルバーガイド」を見たことが

ありませんでした。この冊子はどこで配布されているのでしょうか。また、65歳になる全ての人に郵送してみたいかと思いますが。

市長

市役所本庁と各行政センターで配布しています。郵送については、費用対効果のことも含め、研究させていただきたいと思います。

### (3) 地域活動等の報告

市民

現在、「わんわんパトロール隊<sup>※</sup>」等の事業を実施していますが、今後も、これまで以上に地域のためになる事業を考えていきたいと思っておりますので、学校や公民館、長寿会に関係する方々や地域の皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。

※ わんわんパトロール隊：犬の散歩にあわせて地域の見守り活動を行う事業

<http://www.city.kumagaya.lg.jp/kurashi/siminkatsudo/kouku/list/ooasou.html>

### ○ 市長のまとめ

これまでは、15歳から64歳までの方が生産年齢人口で、65歳以上の方は高齢者に区分けをされてきました。しかし、実際に15歳で働いている方はほとんどいませんし、65歳で高齢者と呼ばれることに抵抗を感じる方も多いためです。平均寿命も随分と延びましたし、今後は年齢の区分けを変更したり、定年を延長したりすることが必要かもしれません。逆に、そうしないと日本の生産構造は成り立たなくなると思います。

同じように、熊谷市が将来も快適に暮らせるまちとして存続していくためには、お年寄りにも積極的に地域の活動に取り組んでいただけるような仕組みが必要であり、地域全体にもそうした気構えが必要だと思えます。また、地域の活動に取り組む中で自然と御近所の様子も分かってきますし、助け合いも広がっていくのではないかと思います。是非、皆さんの御協力をお願いいたします。

今日は長時間にわたり、皆さんの貴重なお話を承ることができ、大変うれしく思っております。本当にありがとうございました。